

渋沢栄一へ思いを馳せた一日

市民学芸員 大木 克巳



長屋門前畑を耕す様子

私は、難波田城公園に活動拠点を置く「難波田城いきものがかり」に入っています。会の活動の一環として園内の田畑の手入れをしています。その中の一つに、公園の西門を入ると目に付く長屋門前の畑があります。ここは、約14坪(48㎡)の畑で野菜や綿、藍が育てられています。

周りの農家さんのあぜ道に種漬花タネツケバナが咲く春の暖かい日に、私たちも種まきの準備で畑の天地返しを行いました。昔は馬や牛で、スキ(犁)を曳くなどして耕していました。私たちの小さな畑は、最初は人力で耕していましたが、最近は耕運機を使うようになり、その作業もずいぶん楽になりました。

この畑で作業をするとき、私はかつての村々にあったという「忍び田」を思い出します。江戸時代には、あちらこちらに、検地を逃れて年貢を課されない小さな田畑がありました。そしてそこに商品作物を植え、副収入を得たと聞いています。こういう田畑を「忍び田」と呼ぶと広辞苑に載っています。

今年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」では、主人公渋沢栄一の家が周辺の農家から商品作物の一つである藍の葉を買い付けた様子が描かれていました。そして藍を育てる生産者の番付表を作り、競わせることで品質の向上を行うなどの工夫もしていたエピソード

ソードも取り上げられました。

さらに栄一の家が、藍葉を加工し、輸送に便利という付加価値のある「藍玉」を作っていたことにも触れられています。

コロナ禍の世の中、栄一とその家族が成したような、ちょっとした工夫や、発想の転換が必要なのかもしれません。そのきっかけになるかもしれない渋沢栄一の書いた「論語と算盤そろばん」をこれから読んでみようかと思っています。

藍の畑を耕していたひと時は、生涯を通じ約500の企業、約600の社会事業に関わった埼玉県の誇る偉人に思いを馳せるひと時でした。そして、NHK大河ドラマの主人公になったような気持ちにもなりました。

また、自転車での帰り道、東武東上線柳瀬川の駅そばにあるレンガ造りの橋脚からも、日本煉瓦製造を創立した栄一のことが偲ばれました。

皆様も藍やレンガなど身近なものから、幕末、明治、昭和を駆け抜けた魂に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



柳瀬川駅そばの橋脚

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちよっと拝見 みどころ紹介

企画展「難波田氏とその時代」―展示図録にみる見どころ

来年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿と13人」の主人公は、鎌倉幕府二代執権の北条義時です。当資料館で開催中の開館20周年記念企画展「難波田氏とその時代」は、この義時とも関連していることをご存知ですか？ ちよっと八百年前の1221年（承久三年）、「承久の乱」が起きました。義時追討を命じた後鳥羽上皇軍に幕府軍が勝利します。宇治川の合戦で討ち死にしたのが金子小太郎で、遺族が幕府から恩賞として難波田の地を拝領―これが難波田氏の誕生とされています。

展示、そしてその図録は、この八百年を難波田氏の由来から活躍するまで見どころいっぱい。ここでは展示図録から、確認された歴史や貴重な展示品を紹介しましょう。

例えば江戸時代の難波田氏の系譜が鮮明になりました。難波田憲利は二代將軍秀忠に仕え大番（江戸城などの警備役）となります。これが旗本難波田氏の祖です。長男憲吉、次男憲長、三男憲頼の三家に分かれ、ともに大政奉還まで続きます。幕末の富士見市に関連する史実も解明されました。彰義隊の残党らが下南畑の興禅寺に籠もり、その首領が難波田氏の末裔を名乗ったとされてきました。彼らが実際、憲頼系の難波田千代虎の一行であったことが判明しました。

明治以降の難波田氏の足跡にも注目です。憲長系の憲欽は屯田兵の中隊長として、北海道旭川市、剣淵町で治水工事を指揮。その貢献か



ら「難波田（なんばた）川・橋」が残っているほどです。その長男龍起は高村光太郎に師事し、後に抽象画の大家になりました。孫の史男も画家で、今回の企画展では龍起、史男の作品が展示されています。経済学者の春夫、作家の節子ら活躍の分野も多彩です。（山本 長春）

おもしろ・なつかし体験⑥9

難波田城オリジナルペーパークラフト
ミニよろいとかぶと

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

難波田城資料館では、ほぼ毎年、4月下旬からのゴールデンウィークに、ちよっと体験で資料館オリジナルのペーパークラフトによる「紙のミニよろい作り」「紙のかぶと作り」を行っています。今年は、残念ながらコロナ禍による安全対策で、ゴールデンウィーク中の体験イベントがすべて中止となり、このよろい・かぶと作りを体験する機会も無くなってしまいました。

ミニよろいは、毎年、園内の旧金子家住宅の座敷に飾られる五月人形にも似て、本格的な形をしています。大きさは30cm程度。作りながらよろいの構造がわかります。

また、かぶともしっかりと紙で作られていて、

小さなお子様がかぶれる大きさです。

資料館では、今年使われなかった材料（キット）を、作り方の説明書(写真入り)も付けて、事務室の窓口で販売しています(よろい 100円、かぶと 200円)。ハサミやセロテープ等を使いますが、お子様でも楽しく組み立てられます。数に限りがありますが、今年買えなかった場合でも、来年のちよっと体験に、ぜひ参加して作ってみてください。

(古澤 立巳)



人の創ったもの★人の使ったもの

このコーナーでは、当館所蔵の資料や富士見市ゆかりの資料を紹介しします。今ではあまり使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

難波田城跡の土葬墓

令和3年(2021)3月13日(土)～6月13日(日)の間、企画展「難波田氏とその時代」を開催しています。難波田氏出現のきっかけとなった承久の乱(1221)から800年。この機に難波田氏の出現から近現代までその子孫の活躍を追います。ここでは、難波田城跡から発掘調査で見つかった土葬墓を紹介しします。

発掘調査に至る経緯

難波田城跡は「難波田氏館跡」として昭和3年(1928)に埼玉県指定史跡となり、昭和36年(1961)に埼玉県指定旧跡に指定変更されています。市はこの難波田城跡について、保存と活用を目的とした公園整備を計画しました。そこで、基礎資料の集積のため、昭和56年(1981)から5か年計画で11地点に及ぶ発掘調査が行われました。

土葬墓と人骨

5か年計画による発掘調査の最終年、昭和60年(1985)に、難波田城跡の中心部の南側、曲輪2にあたる部分で、第11地点の調査が行われました。この調査で、直径約80cm、深さ約30cmの墓穴が見つかりました。ここからは人骨が出土し、その保存状態は良くなかったものの、土葬墓の形から座葬されたものと判断できました。中世には土葬はあまり普及していません。しかし、城館跡では土葬墓が一基だけ発見されることがあり、その城館において重要な人物が埋葬されたのではないかとされています。



難波田城跡の土葬墓(7号土坑)

鉄製短刀と宋銭

この土葬墓には、鉄製短刀と宋銭6枚が副葬されていました。鉄製短刀は長さ約20cmの鎧通しです。全体的に錆に覆われていて保存状態は良くありませんが、銅製の鍔が確認できます。



鉄製短刀(鎧通し)

宋銭(中国で宋の時代に作られた貨幣)は淳化元宝(990～994)、至道元宝(995～997)、皇宋通宝(1039～1040)、元豊通宝(1078～1085)2枚、元祐通宝(1086～1094)の6枚でした。



淳化元宝 至道元宝 皇宋通宝
元豊通宝 元豊通宝 元祐通宝

宋銭は、どれも10～11世紀のものですが、日本では12世紀頃から流通します。そして、16世紀後半以降は、中国、明の時代に作られた永楽通宝が価値のある銭貨として扱われます。

六文銭を副葬する風習が定着しだすのが15世紀以降といわれています。さらに永楽通宝が含まれていないことを加味すると、人骨とこれらの品は戦国時代である15世紀後半～16世紀前半に埋葬されたと考えられます。

(菅沼 慎太郎)

* * 夏のイベント予定 * *

●じゃがいも掘り

とき／6月20日(日)午前10時、11時
 ※雨天時は6月27日(日)に延期
 集合場所／旧金子家住宅前(畑は公園の隣です)
 定員／各8組(申込順) 参加費／1組1000円
 主催／難波田城公園活用推進協議会
 申込み／6月5日(土) 午前9時から電話で

●ちよっ蔵市「ふかし芋」

とれたてのジャガイモです。
 とき／6月20日(日)午前11時～
 ※売り切れ次第終了
 場所／旧金子家住宅 価格／1パック100円
 主催／難波田城公園活用推進協議会

●田舎まんじゅう販売

毎月第1、第3日曜日はちよっ蔵(売店)で、手作りの田舎まんじゅうの販売をしています。
 とき／6月6、20日 7月4、18日
 午前10時30分～
 ※売り切れ次第終了
 価格／1パック200円(2個入)

●古文書入門講座

市内に残された江戸時代の古文書を解説しながら、当時の歴史や文化を学びます(全3回)。
 とき／8月29日(日)・9月12日(日)・9月26日(日)の午後1時～3時
 会場／講座室 講師／山野健一(当館職員)
 定員／18人 参加費／無料
 申込み／8月1日(日)から電話または資料館窓口で

●早朝の蓮を見学できます

6月19日～7月10日の土曜日は、午前6時30分に開園します(資料館・古民家は午前9時開館)。開花状況は市ホームページでお知らせします。

※なお、ここに掲載されたイベント等も含めコロナの感染状況などにより変更となる場合があります。最新の情報は資料館公式サイト(下記URL、QRコードよりアクセス可)をご覧ください。

●◆資料館企画展図録等の紹介◆●

本館でこれまで刊行された図録等の一覧です。ご購入は窓口、遠方の方は郵送でも可能です。詳しくは資料館にお問い合わせください。

刊行年	タイトル	頁数	価格
平成12	難波田城公園・資料館 施設案内	14	100
平成12	難波田城資料館常設展示図録	38	500
平成13	くらしの水 ～収蔵資料に見る富士見の水利用～	HPにPDF有	
平成13	文書の時代 ～鶴馬村の名主・戸長～	26	200
平成14	ちょっと昔の着物語	24	300
平成14	写真展 富士見の暮らしとできごと	24	250
平成15	市制施行30周年 記憶の扉1972	26	300
平成15	村をまもる消防	24	300
平成16	富士見之板碑	19	300
平成16	富士見の村絵図	24	400
平成17	わら縄のちから	24	300
平成18	難波田城のすべて	21	450
平成19	富士見の修験道 ～十五院と般若院～	24	400
平成20	草屋根の年中行事	26	400
平成21	戦国の集落と領主	23	売切
平成22	富士見のみそ・しょうゆ	24	400
平成23	水害と闘う	24	300
平成24	世界一の砲丸職人 ～辻谷政久氏のものづくり～	24	300
平成25	ベッドタウンの制服史	C24	400
平成25	郷土かるたの富士見	HPにPDF有	
平成26	田んぼ今昔	C36	500
平成27	古老が描いたむかし -喜太郎さんのスケッチブック-	C33	500
平成28	ほうきと竹かご	C24	400
平成29	武鑑の世界 -江戸時代の大名ガイドブック-	C24	400
平成30	里神楽と面師	C33	500
平成30	70年前に戦争があった (平成27年度穀蔵展示)	HPにPDF有	
平成30	富士見市・セルビア友好記念展	A5版 HPにPDF有	
平成31	村人たちの明治	C16	300
平成31	平成史 in 富士見	C24	500
令和01	古民家模型の世界	A5版 HPにPDF有	
令和02	お風呂の富士見誌	C24	400
令和03	難波田氏とその時代	C24	400

※図録等のサイズ表記の無いものは全てA4版

※頁数の頭にCとあるものはカラー刷り



富士見市立難波田城資料館
〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryoukan/nanbatajo/index.html

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)



資料館公式サイト